



# 2019年3月期 第1四半期 決算説明資料

ゲオホールディングス (2681)  
GEO HOLDINGS CORPORATION

August 8 .2018

- 1 2019年3月期 第1四半期 連結業績
- 2 商材別実績
- 3 業績予想
- 4 株主還元
- 5 補足資料

## 第1四半期連結業績

- リユースが好調に推移し、売上高は5期連続で過去最高を更新
- 効率的なオペレーションの更なる見直しを継続。販管費の適正化
- 出店計画は、順調に推移

## 商材別実績

- リユース商材の深耕による、粗利高の伸長

## 業績予想

- リユース市場の活性化も、持続的な成長基盤の整備を継続

# 2019年3月期 第1四半期 連結業績

---

# 売上高は5期連続で過去最高を更新

・2019年3月期第1四半期：連結損益計算書

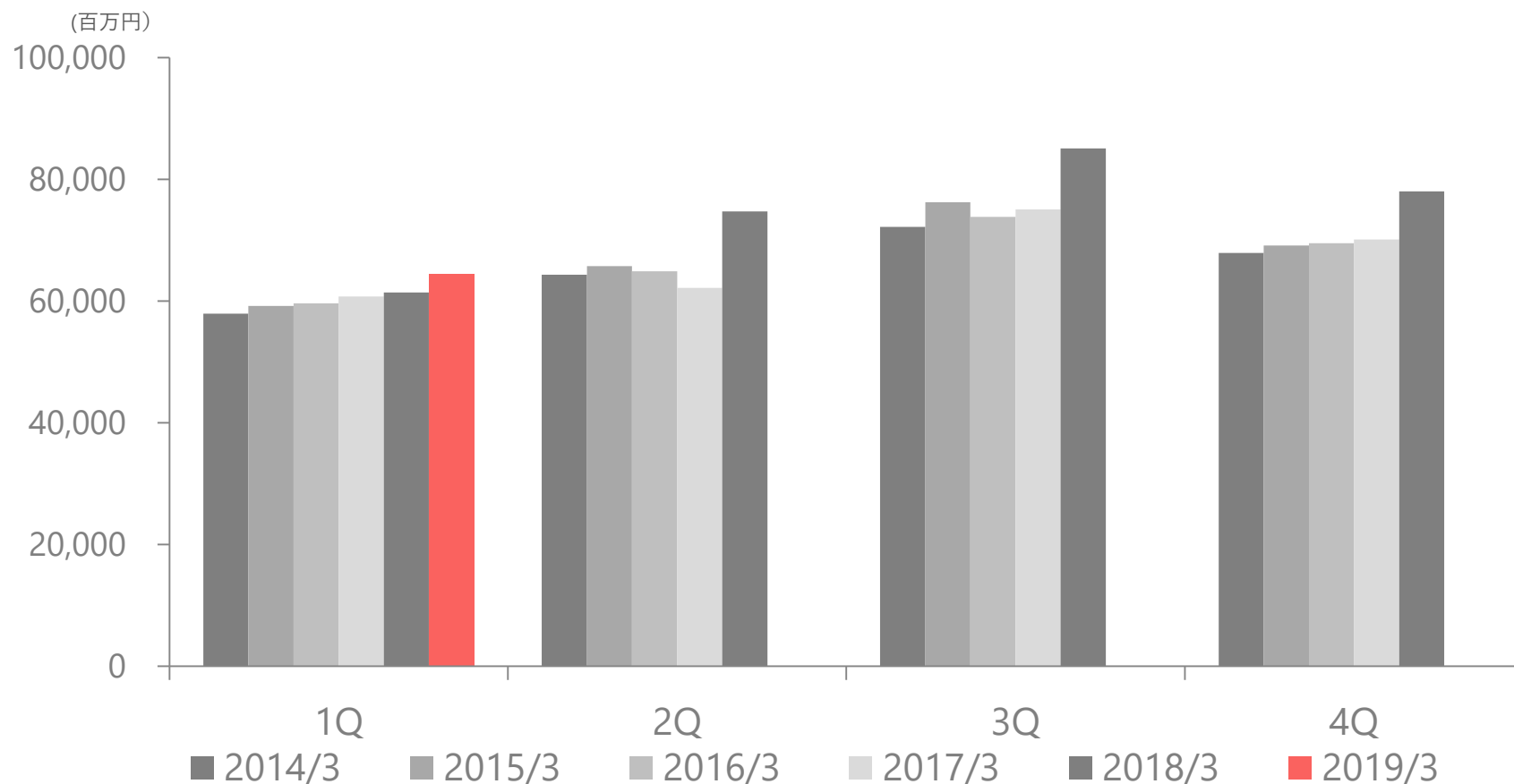
売上高はリユース商材が好調に推移し、計画・前年共に上回った。販管費の適正化により営業利益も増加し、また当社の所有する土地及び建物について、市街地再開発事業の明渡しに伴う補償金が発生し、営業外収益が計上されたことで経常利益及び当期純利益も増加。

単位：百万円	19.3月期		18.3月期		前期比
	1Q	実績	1Q	実績	
売上高		64,425		61,407	104.9%
売上総利益		29,093		27,848	104.5%
(売上総利益率)		45.2%		45.4%	
販管費		25,368		24,811	102.2%
営業利益		3,724		3,036	122.7%
(営業利益率)		5.8%		4.9%	
経常利益		4,524		3,316	136.4%
当期純利益		2,781		1,843	150.9%

# 前年との比較では、2Q以降のハードルが高い

## ・連結売上高推移

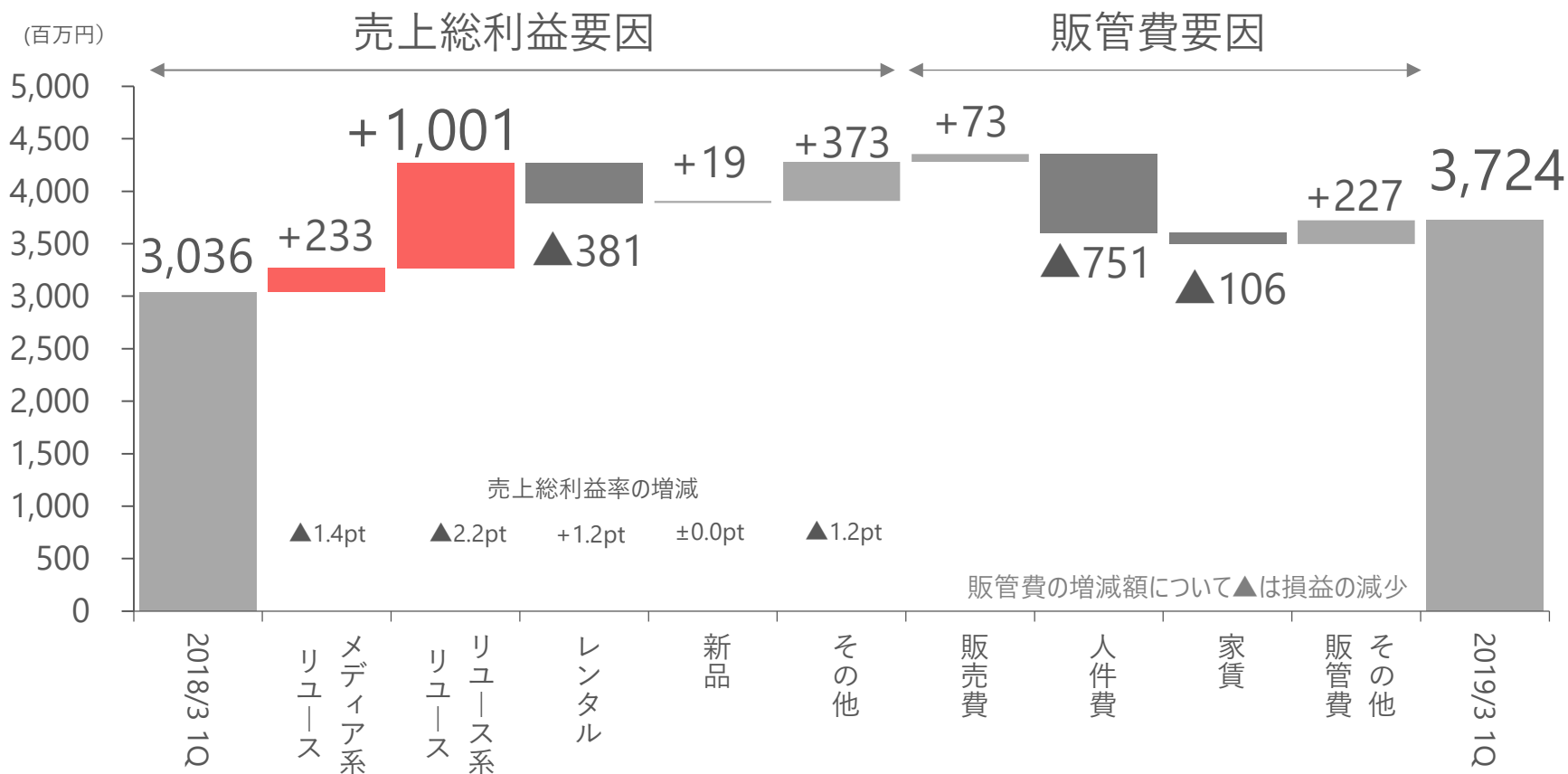
前年は、ニンテンドースイッチやPS4のリードタイトルが2Q以降に揃っていたことから苦戦も予想されるが、1Qのスタートは好調に推移。



# リユース商材の好調により売上総利益・営業利益がプラス

## ・営業利益増加要因①

リユース伸長により売上総利益が増加。  
レンタル商材の減少をリユース商材の増加でカバー。



## 販管費の適正化

### ・営業利益増加要因②

新規出店による人件費・家賃は増加したが  
 その他販管費の適正化により営業利益は6億円の増加。

	増減額	前期比	
売上総利益	1,245	104.5%	リユース系商材の伸長
販管費計	556	102.2%	
販売費	▲ 73	96.5%	広告費は増加するも前期から続く抑制傾向
人件費	751	106.1%	出店を含む人件費の増加
家賃	106	102.0%	店舗数の増減は + 10店舗
その他諸経費	▲ 227	95.6%	出店コストは嵩むも全体での効率化を図る
営業利益	688	122.7%	前期を上回るものの、下期偏重に変わりなし

単位：百万円 販管費の増減額について▲は損益の増加



# 資本効率の向上を目的とした自己株式の取得を実施※1

## 2019年3月期第1四半期：連結貸借対照表

	2018年6月末	構成比	2018年3月末	構成比	増減額
流動資産	74,080	58.4%	84,566	61.6%	▲ 10,485
現金及び預金	32,248		42,667		▲ 10,419
商品	31,217		30,007		1,210
固定資産	52,665	41.6%	52,769	38.4%	▲ 103
有形固定資産	28,242		28,396		▲ 153
無形固定資産	1,435		1,443		▲ 8
投資その他資産	22,988		22,929		58
資産合計	126,746	-	137,335	-	▲ 10,589
流動負債	30,243	23.9%	35,618	25.9%	▲ 5,374
買掛金	10,106		12,316		▲ 2,210
1年以内返済予定の長期借入金	4,914		5,539		▲ 625
固定負債	28,608	22.6%	29,526	21.5%	▲ 917
長期借入金	19,022		19,897		▲ 874
負債合計	58,852	46.4%	65,144	47.4%	▲ 6,291
自己株式	▲6,834		▲525		▲6,308
純資産合計	67,893	53.6%	72,191	52.6%	▲ 4,298
負債純資産合計	126,746	-	137,335	-	▲ 10,589

※1 2018年8月31日消却予定

単位：百万円

# 商材別実績

---

## リユース商材の深耕により、売上104.9%

### ・商材別売上高

セカンドストリートで展開する「衣料・服飾雑貨」が、市場の活性と共に好調に推移。ゲオショップにおいては、セールと連動する形で、リユース通信機器・ゲームが想定を超える伸長となった。

	19.3月期 1Q 実績	18.3月期 1Q 実績	前期比	増減額
リユース	25,421	22,731	111.8%	2,690
メディア系	13,278	12,317	107.8%	961
リユース系	12,142	10,414	116.6%	1,728
レンタル	15,508	16,459	94.2%	▲ 950
新品	15,575	15,493	100.5%	82
その他	7,922	6,725	117.8%	1,197
合計	64,425	61,407	104.9%	3,017

単位：百万円

## 売上高の増加に伴い粗利高も増加

### ・商材別売上総利益

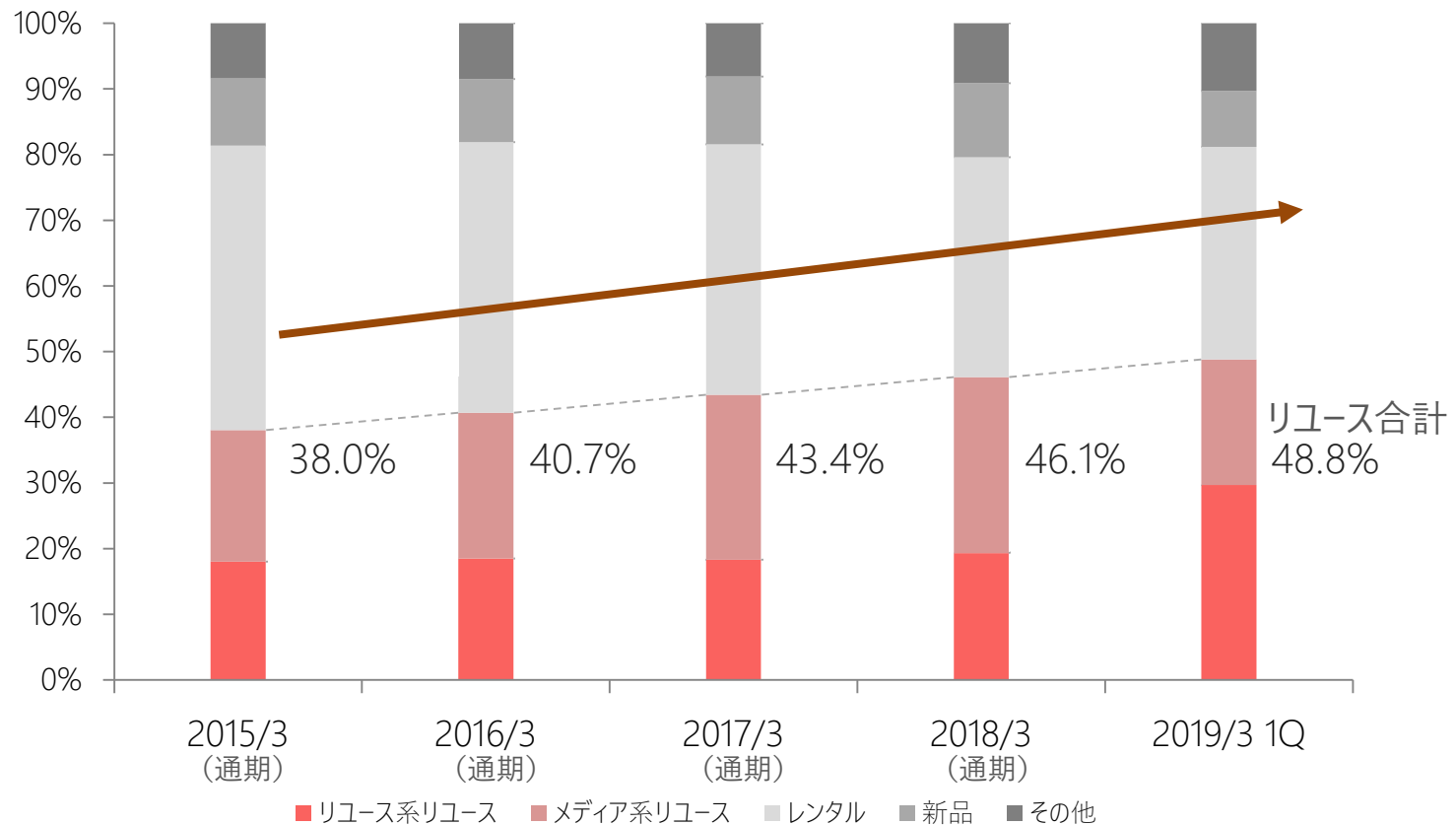
新品商材よりもリユース商材が伸びたことで、粗利高が前期を上回った。

	19.3月期 1Q 実績	18.3月期 1Q 実績	前期比	増減額
リユース	14,198	12,964	109.5%	1,234
メディア系	5,556	5,323	104.4%	233
リユース系	8,641	7,640	113.1%	1,001
レンタル	9,420	9,802	96.1%	▲ 381
新品	2,462	2,443	100.8%	19
その他	3,014	2,640	114.2%	373
合計	29,093	27,848	104.5%	1,245

単位：百万円

### ・商材別粗利高構成比

メディア系、リユース系リユースの伸長により、粗利高の構成比は年々高くなっており、さらなる成長を目指し、販売・買取基盤の整備を進める。



# 業績予想

---

2019年3月期第1四半期は好調に推移したが、前期と同規模の新品セグメントの牽引は見込めないも、引き続きリユース深耕を継続的に図るため、平成30年5月10日に公表いたしました通期業績予想からの変更はありません。

	19.3月期 見通し	増減率
売上高	290,000	▲3.1%
営業利益	8,600	▲41.4%
経常利益	9,100	▲40.3%
当期純利益	4,600	▲30.5%

単位：百万円

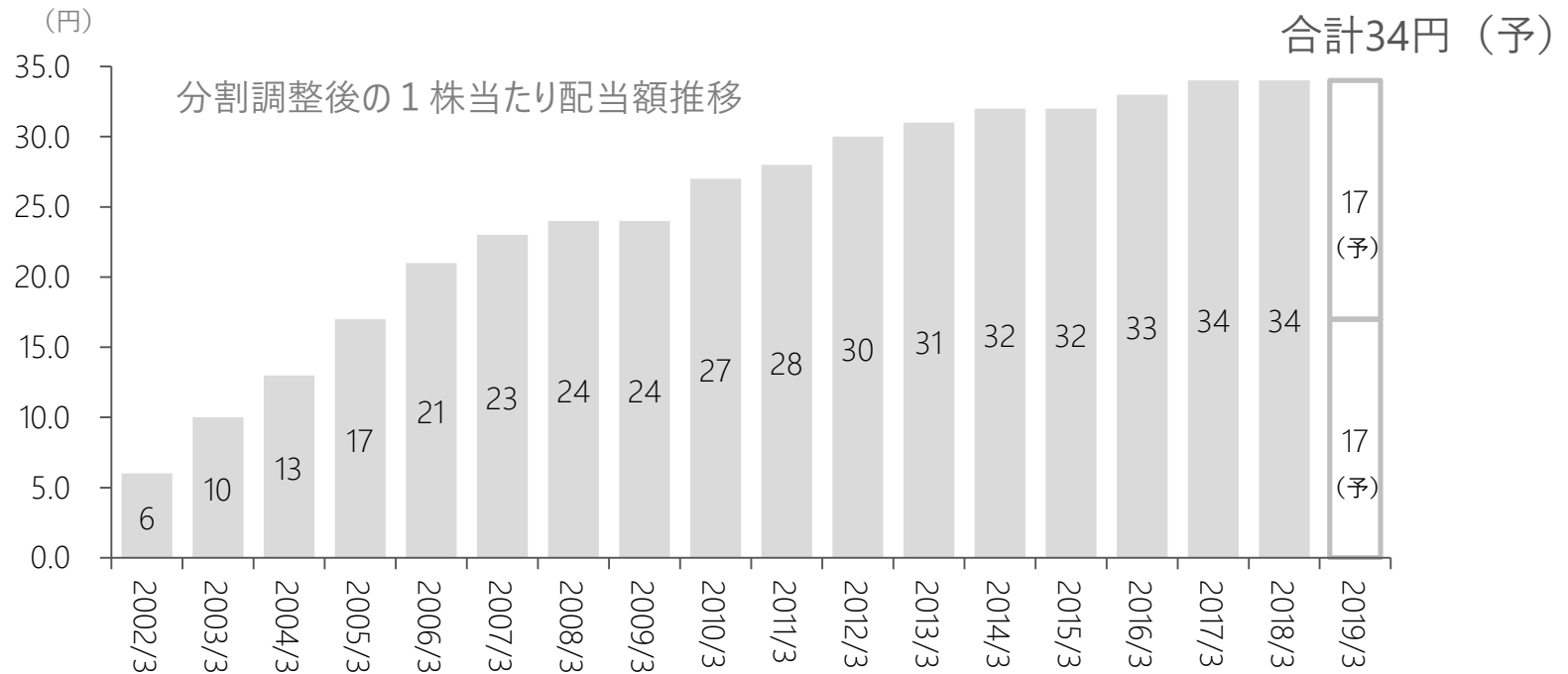
# 株主還元

---



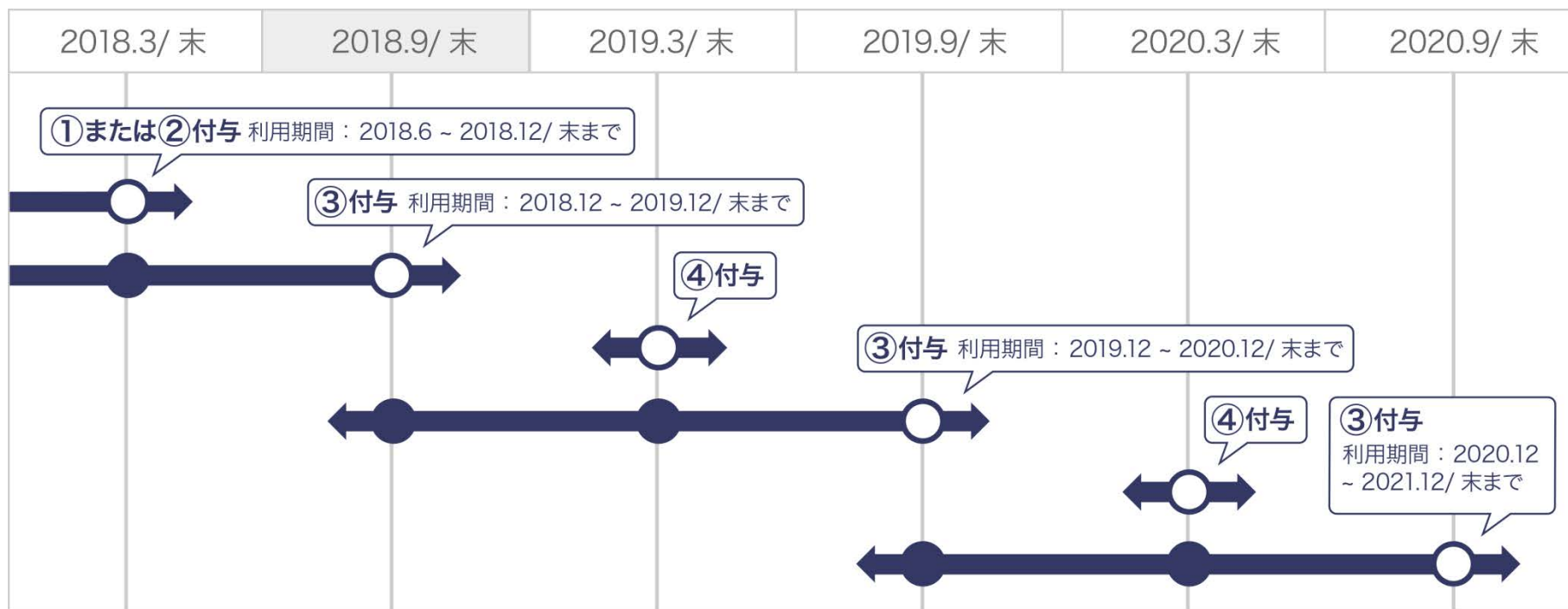
安定的な経営基盤の確保と利益率の向上に努めるとともに、業績に応じた配当を行うことを基本方針としております。

中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行っており、2019年3月期は1株当たり34円の配当を予定。



## 株主優待は、長期的保有を目的に変更

2018年9月末より、継続保有期間1年以上でレンタル半額優待、毎年3月末の株主様には、リユース割引券の優待権利取得に変更しました。



- ・継続保有期間1年以上とは、3月31日及び9月30日の株主名簿に連続して3回以上、同一株主番号で記載または記録されることを言います。
- ・但し、2018年9月期については、2018年3月31日及び2018年9月30日の連続2回、同一株主番号で記載または記録されていれば株主優待の権利が得られます。 ※①③はレンタル半額、②④はリユース2,000円割引券

# 補足資料

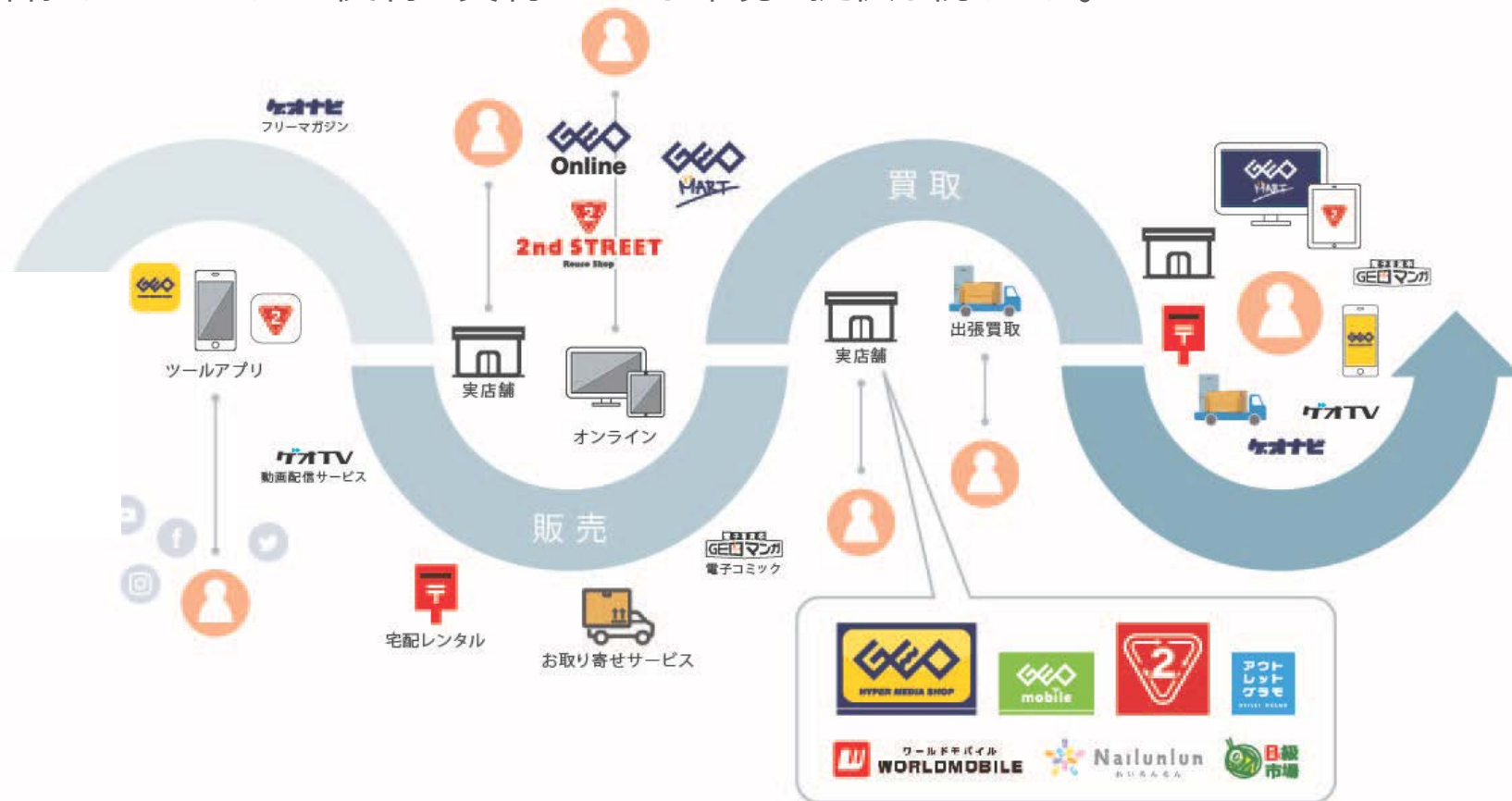
---

2018年6月末現在

社名	株式会社 GEO ホールディングス (英文表記：GEO HOLDINGS CORPORATION)
会社設立	1989年（平成元年）1月
本社所在地	〒460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町8番8号
代表取締役	代表取締役社長 遠藤結蔵
資本金	89億37百万円
株式上場市場	東京証券取引所 第1部
従業員数	4,336名（グループ全体）
事業内容	ゲーム・通信機器・衣料・服飾等を中心にした総合リユース DVD・CD・コミック等のレンタル、ゲーム等の新品販売
企業理念	「豊かで楽しい日常の暮らしを提供する」

## 当社のビジネス

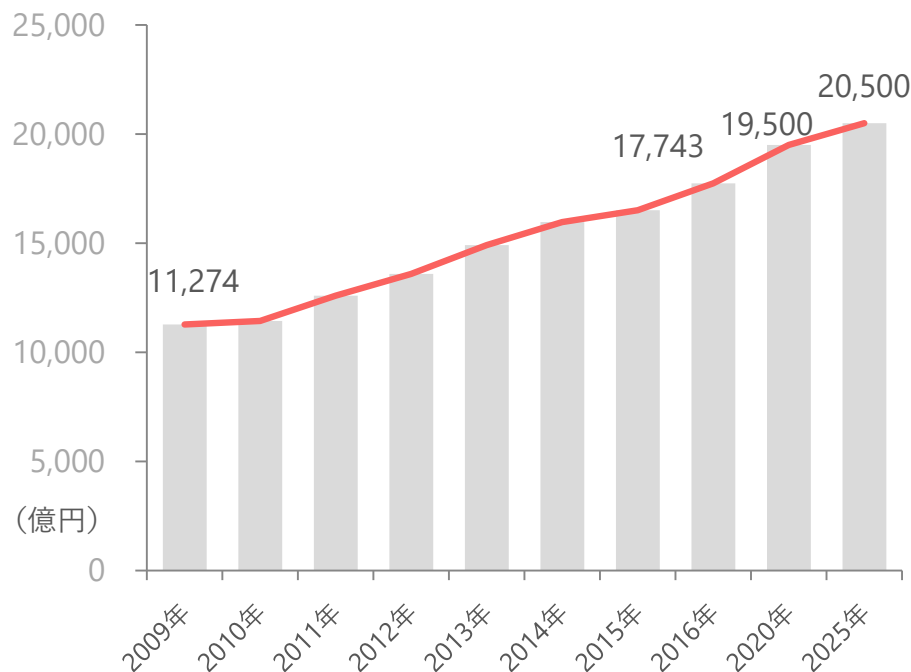
顧客の利便性向上を図るために様々なサービスを提供。  
販売チャネルを意識せずに販売・買取・レンタルと  
お客様のシーンにあった便利に買物ができる環境を提供し続けます。



## リユース市場規模

リユース市場は2009年度より7年連続で拡大し、2025年度には2兆円規模に。  
リユースが伸長する中で、企業対消費者間取引における店頭販売は、76.5%を占める。

### ■リユース市場規模



□リユース市場構成比



□ B toC リユース市場構成比



出典：リサイクル通信発行「中古市場データブック2018」推計値はいずれも2016年度

グループ店舗総数 1,853店

	2018年 6月末	2018年 3月末	増減
ゲオグループ店舗施設	1,853	1,843	10
小売サービス店舗	1,842	1,833	9
 ゲオショップ	1,216	1,220	▲ 4
直営店	1,035	1,037	▲ 2
代理店・FC店	181	183	▲ 2
 ゲオモバイルショップ	17	17	0
 セカンドストリート ジャンブルストア※	597	584	13
直営店	547	535	12
FC店	50	49	1
その他	12	12	0
 アミューズメント施設	11	10	1

※ スーパーセカンドストリート・買取専門店等を含む



セカンドストリート新宿店（東京都新宿区）

セカンドストリート三条河原町店  
（京都府京都市）セカンドアウトドア仙台古城店  
（宮城県仙台市）

海外へビジネス展開することにより、当社グループの更なる拡大を図る。  
リユース認知度が比較的高い北米地域でドミナント戦略を行い、今後の事業拡大を検討  
マーケティングリサーチを目的に東南アジアへも出店

カリフォルニア州パサデナ店  
(2018年6月オープン)



カリフォルニア州メルローズ店  
(2018年1月オープン)



カリフォルニア州コスタメサ店  
(2018年7月オープン)

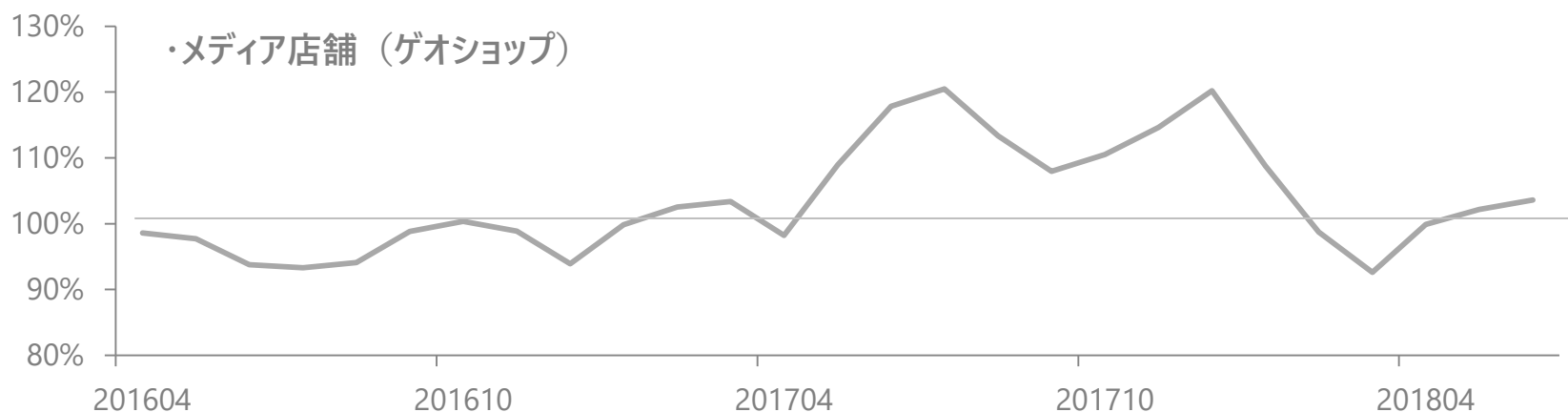
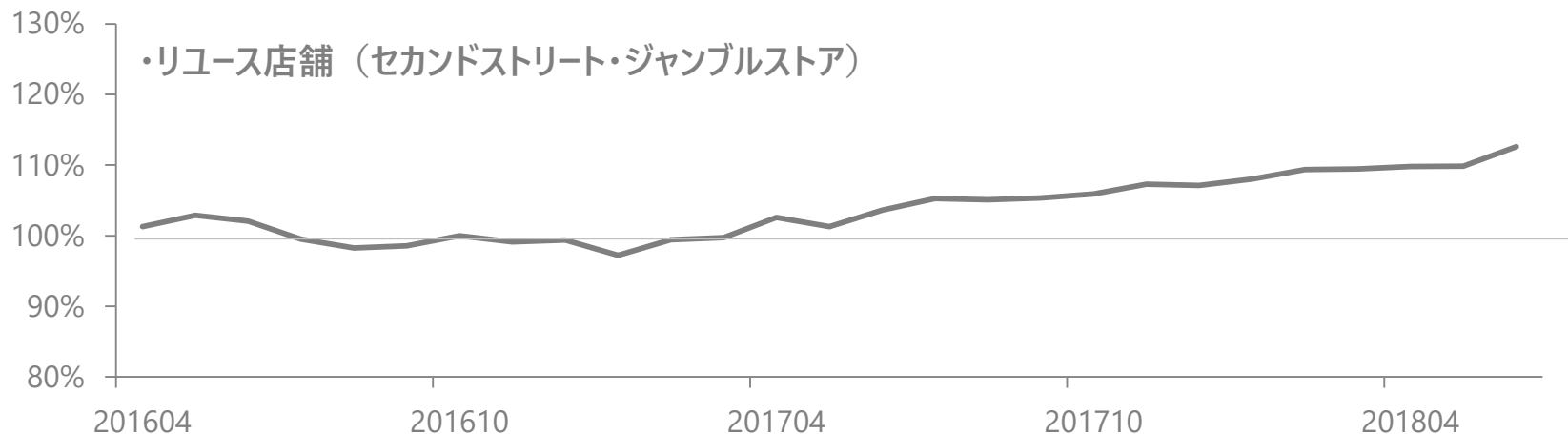
マレーシアSS13店  
(2018年7月オープン)





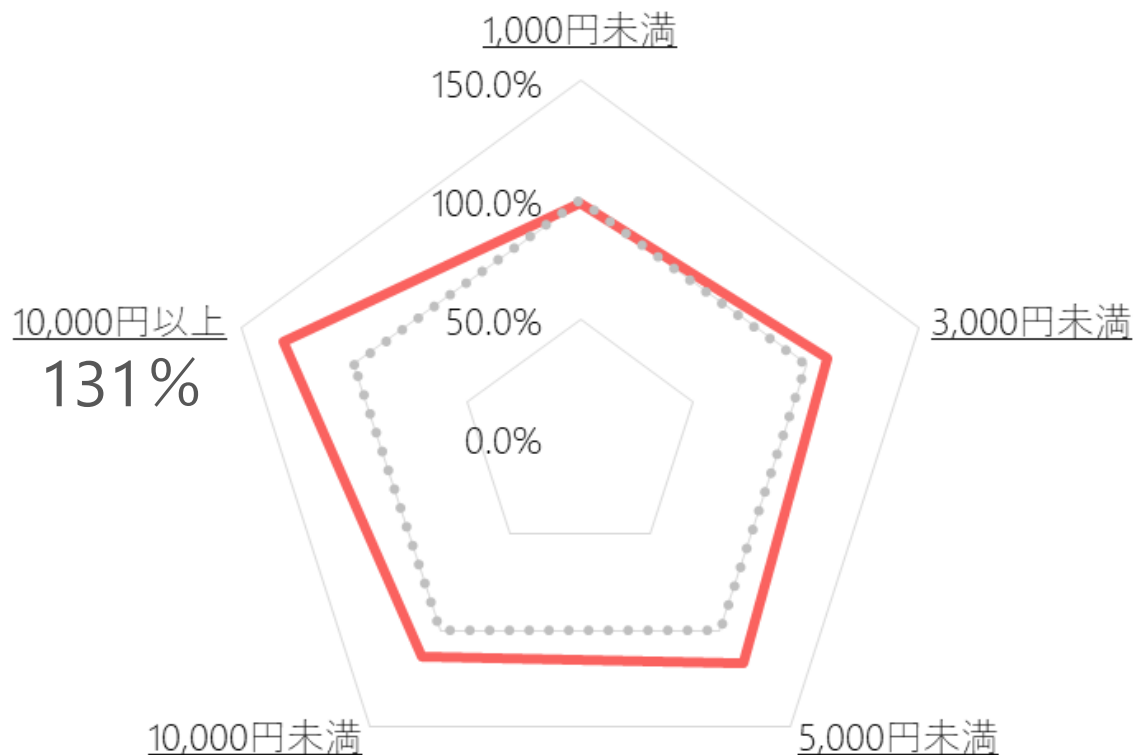
## 既存店売上高前年比の推移 (3ヶ月移動平均)

リユース商材が牽引しメディア店舗・リユース店舗ともに好調に推移  
リユース既存店は前年を上回る推移継続



## リユース衣料・雑貨の価格帯ごとにみる成長率

- ・リユース衣料・服飾雑貨における価格帯別の取引状況（販売のみ）。  
リユース市場の活性と共に、10,000円以上の高価格帯での成長率は131%※1に。



※1 2017年7月～2018年6月の販売実績と2016年7月～2017年6月までの販売実績を比較

## 電子商取引が関与した売上高も伸長

当社のサービスのうち、小売サービスにおける電子商取引が関与した売上高を比較。



	19.3月期 1Q 実績	18.3月期 1Q 実績	増減率
EC関与売上高	2,104	1,212	173.6%
EC関与販売数	434,015	300,154	144.6%

単位：百万円

## 将来の見通しに関する記述の注意

---

本資料に記載されている、当社グループに関する業績見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価ならびに業績や配当の見通し等といった将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての事実は、当社グループが現在入手している情報に基づく、現時点における期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上客観的には、不正確であったり、一般的な状況、天候、景気および消費動向の変化、消費者の嗜好変化等による潜在的リスクを含んでおり、将来その通りに実現するという保証はいたしかねます。

---

お問合せ 株式会社ゲオホールディングス 経営企画部

TEL : 052-350-5711 FAX : 052-350-5701

Email : [info@geonet.co.jp](mailto:info@geonet.co.jp)